

令和7年度宇都宮南高等学校 各学年・各教科・各部の目標と方策

本年度の重点目標		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 3年間を通したきめ細かな進路指導	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
		1 自己有用感・自己指導能力を育む指導 ① 学業指導等を通した生徒指導の充実 2 生徒一人ひとりへの支援の充実 ① 教育相談等を含めた個別面談の充実 ② 悩みや不安を抱えている生徒の早期発見、積極的支援及び組織的対応 ③ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用 3 文武両道の奨励 ① 部活動における自己ベストの追求を通じた自己理解、自己発見、自己管理の実現及びレジリエンスと自己有用感の向上 ② 国際理解教育の推進と国際交流活動を通じた多様性への理解及び自己理解の深化 ③ 地域理解、地域連携、地域貢献を通じた視野の拡張及び利他性の育成 4 安全・安心な学習環境の提供 ① 交通法規や交通マナーの遵守 ② 危機管理の徹底 ③ 報告・連絡・相談の徹底及びその後の確認 5 積極的な情報発信 ① 効果的な情報発信の検討	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ① 丁寧でわかる授業の実践 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫と改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 学習指導要領の着実な実施	1 生徒一人ひとりの進路意識の向上 ① H R、進路講話等を通じた進路意識の向上 ② 進路選択の拡大 ③ 学びのポートフォリオの活用	1 教職員の心と身体の健全化 ① サポート体制の構築と計画的な年休取得 ② 健康診断や再受診などのよる健康の保持増進 2 働き方改革の推進 ① 教職員一人ひとりの意識改革 ② 持続可能な部活動指導の在り方の検討 ③ 業務の進行管理と円滑な引継ぎ ④ I C Tを活用した業務の効率化及び情報の共有化 3 教職員の不祥事防止 ① 風通しの良い職場環境の整備 ② 校内研修の充実
1学年	具体目標	○ルールやマナーを遵守し、自立した生活を意識させる。行動の結果を振り返り自己を成長させる力を身に付けさせる。 ○部活動等に意欲的に取り組ませる。学習との両立に対する目的意識を身に付けさせる。 ○多様性を認め、協調、協働する力を養うとともに、自らの価値を認めあう力を醸成するための働きかけをする。	○課題に対して主体的に解決する力を身に付けさせる。 ○自主学習に向けたスケジュール管理の習慣を身に付けさせる。 ○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。 ○3観点評価を実施し、より良い評価方法を模索する。	○進路資料や情報誌を活用、提供し、進路に対する意識付けを積極的に働きかけていく。 ○学習の取り組みを踏まえつつ、自分自身の特性を見定める力を養い、文理コース選択に生かす。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○配慮を要する生徒を見落とさず、情報共有を徹底する。 ○互いに声をかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒の行動に留意し、不適切な行動があればその場で指摘すると同時に、どのように行動すれば良かったのかを考えさせる。 2) 何をすべきかを自らに考えさせ、主体的な活動や学びに結びついていくよう助言する。 3) 面談等を通して、情報収集の手段や方法について具体的なアドバイスを心がける。	1) 授業中等に自ら思考・判断する場面をつくり、協働して学習を進める時間を増やす。 2) スタディサプリを導入し、朝の学習だけではなく部活動との両立にも役立てていくことができるよう助言していく。 3) 講習や研修の資料等を必要に応じて回覧・掲示していく。 4) 教科間、学年間で情報共有を行いながら、より良い評価になるように試行錯誤を繰り返していく。	1) 休日や長期休業期間を利用し、オープンキャンパスや見学会等に積極的に参加し、情報を得よう促していく。 2) 生徒個別面談や保護者との情報共有を密に行い、生徒一人一人にあった進路を検討し、方向性や可能性を導き出し、生徒に紹介していく。	1) 些細なことであっても抱えてしまうことが無いよう、学年会や担任打ち合わせなどで情報共有し対応を協議していく。 2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。 3) 分掌に偏りが無いかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。
2学年	具体目標	○協同的な活動を通じて互いを認め合い、集団の中に自分の居場所があると感じられる絆作りを進める。 ○自らの生活を客観的に見つめ直し、部活動との両立等を見据え、自己管理する力を身に付けられるよう導く。 ○個人面談等の機会を有効的に活用していくとともに、学年内の情報共有に努めながら生徒の心的支援を行う。	○主体的に問題解決に取り組む姿勢や、それに基づいた手立てを準備し、常に「問題意識を生み出す」という視点で授業を行う。 ○基礎学力の定着と応用力が身につくことを目指し、主体的な学習の習慣化を促す。	○自らの進路について考えることができる力を身に付けさせる。 ○外部模試等の受験において、準備から振り返りまでを習慣化できるよう指導していく。 ○進路情報の提供を積極的にを行い、意識の向上を図る。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○互いに声のかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒一人一人に活躍の場を提供し、役割を与え、それを果たした活動・努力を承認・称賛する。 2) 白手帳を活用して生活を記録させることにより、生活リズムの見直しをさせ、改善へと導く。 3) 学年を一つのクラスと捉え、「私たちは いつでも 誰でも誰にでも」を心がけながら生徒の支援に当たる。	1) 学習内容につながる気付きや疑問を持たせる。また、そのことを他者と共有するために表現ができるよう努力させる。 2) スタディサプリや白手帳の活用を働きかけていくことにより、学習の振り返りと習慣化を目指していけるように導く。	1) 全体に働きかけることと並行して、個別面談等においても情報収集の手段や方法についての具体的なアドバイスを心がける。 2) 模試の振り返り等を行うことで、大学入試等への意識を高めていくと共に学習に対する態度の振り返りをさせる。 3) キャンパス見学やオープンキャンパスに参加させることで、大学進学等への意識を高めさせる。	1) 分掌に偏りが無いかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。 2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。
3学年	具体目標	○学校行事や日常生活での活動を通じて、他者から認められ、集団の中に自分の居場所があると感じられる絆作りを進める。 ○自らの生活を客観的に見つめ直し、進路実現に向けた自己管理を意識しながら生活できるように導く。 ○個人面談等の機会を有効的に活用していくとともに、生徒の状況や進路希望を情報共有し、学年として生徒の支援を行う。	○主体的に取り組む姿勢を更に培い、「問題意識を生み出し、解決への手立てを思考する」という力が育成できるように授業を行う。 ○応用力を身につけることが目指せるレベルに到達できるよう、基礎の重要性を振り返らせながら学習の習慣化を促す。	○自らの進路について考え、自主的に行動できる力を身に付けさせる ○外部模試等の受験において、その意義や目的について指導すると共に、振り返りによる学力の向上を定着させていく。 ○進路情報を得る様々な方法について積極的に紹介し、自ら興味を持って動くことができるよう指導していく。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○互いに声のかけやすい職場環境作りを目指す。 ○外部模試の監督等のあり方について共通理解をし、協力をしていく。
	具体方策	1) 生徒一人一人に活躍の場を提供し、役割を与え、それを果たした活動・努力を承認・称賛する。 2) 各自が進路カレンダーを作成し、最終ゴールを意識しながら逆算した生活ができるよう指導する。 3) 週1回の担任会において情報共有を図るとともに、担任間でアドバイスをし合うなど、特に進路に関しては全クラスが方向性を同一にしていけるように心がけていく。	1) 「やらされる学習」から「自発的・主体的な学習」となるよう、学習内容につながる疑問や気付きを持たせ解決へと取り組ませる。また、そのことを他者と共有するために表現ができるよう努力させる。 2) スタディサプリを活用し、個人のレベルに応じた学習（振り返り）が常に可能であることを意識させ、学習の習慣化に繋げていく。	1) 全体に働きかけることと並行して、個別面談等においても情報収集の手段や方法についての具体的なアドバイスを心がける。 2) 模試の結果を個別の面談等で活用し、目標を見定めていくことができるよう指導する。また、結果を受け止めることで学力を向上させる努力が継続できるように指導し、大学入試等への意識をさらに高めていく。 3) 年度当初に進路資料室で活用する方法をガイダンスすることで、進路実現に向かうことや情報を得ることへの意識を高め、その後の活用へと繋げていく。	1) 分掌に偏りが無いかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。 2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。 3) 年間のスケジュールをお互いに把握し、偏りのない働き方を目指す。
国語科	具体目標	○協同的な学びを通して、他者との相互理解を深めると同時に自尊感情を養う指導を行う。 ○先を見通した学習計画を周知し、確かで安心な学習活動の場を提供する。	○基礎・基本の定着を図るため、家庭学習を習慣化する指導を行う。 ○幅広いジャンルのテキストを主体的に読み、物事を多角的に捉える力を身につけさせる。	○主体的な判断と行動につながる論理的思考力・表現力を身につけさせ、進路実現に柔軟に対応する力を養う。 ○進路に応じた読書活動に主体的に取り組ませ、進路研究や受験に対応する素養を身につけさせる。	○I C Tの活用により、授業内容の効率化・精選を計ると同時に、教材の共有による公平性の保持に努める。 ○自動採点システムの活用により、業務の効率化と正確性の徹底を図る。
	具体方策	1) 授業でグループワークや発言しあう活動を多くし、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を的確に伝えられる環境を作る。 2) シラバスを活用し、定期試験の準備だけでなく、単語テストや週末課題の提出に対し計画的に学習に取り組めるよう配慮する。	1) 漢字や単語、読速などのテキストを用いて語彙力を向上させ、知識の定着を図るため小テストを繰り返し実施する。 2) 適切な課題を与え、主体的な家庭学習習慣の確立を促す。 3) 授業を通して読解のプロセスを身につけさせ、どのようなジャンルの文章でも正確に読み取れるようにさせる。	1) 文学作品や評論において、社会や人間の在り方について深く考察し、自分の興味関心や進むべき道についても結びつけていけるよう、話し合いや文章による表現の指導を行う。 2) 図書館を活用し、読書及びその記録を習慣化する ことで幅広い教養と見識を養わせる。	1) タブレットや映像教材などを活用し、生徒との対話的指導を行う。 2) 「百問繚乱」の活用の仕方を工夫し、テストの採点の効率化と公平性の保持、及び不正行為の防止に努める。
地歴公民科	具体目標	○生徒が前向きに学習に向かえるよう支援する。 ○教科としての情報発信に努める。	○学びの有用性を意識、理解できる授業を行う。 ○生徒が自ら学ぶ態度の育成を図る。	○教科として可能な進路意識の向上や進路選択の拡大につながる取り組みを1年時から行う。	○一人に負担が集中しない業務のあり方を追求するとともに、ICTを活用した業務の効率化や情報の共有化を促進する。 ○教科教員間の良好な関係構築を基礎に、不祥事防止を図る。
	具体方策	1) 生徒自身が成果を感じられるような学習上の取り組み、気になる生徒への声掛け・面談等実施する。 2) 研究授業実施時等、ホームページに記事を上げる。	1) 学習内容と身の回りの事物・事象との関連性を強調する授業、説明能力の向上を図る授業を行う。 2) 授業内外の継続的な取り組み・働きかけにより、生徒に予習や復習を習慣化させる。	1) 過去の入試問題等を研究・分析し、その成果を活かした授業やテストを行う。 2) 進路に関して独自に得た情報や自身の指導経験に基づく話等積極的に生徒に伝達する。	1) 従来行ってきた業務分担や校務用データによる情報共有等の働き方改革を継続・改善するとともに、採点業務の効率化等を視野に「百問繚乱」の活用も進める。 2) 積極的にコミュニケーションを取り、また教科の様々なレベルで不祥事防止を働きかけ合う。
数学科	具体目標	○授業時の主体的な活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。	○身の回りの事象を数学的に解釈し、表現・処理できる能力の伸長を図る。	○数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度を養い、社会の問題解決に取り組む姿勢を育む。	○教科担当者間での情報共有を図る。 ○ICTを活用し業務の効率を図り、よりよい教科指導のための時間を作る。
	具体方策	1) 対話やグループ活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。 2) 様々な解法を探究する中で、考え方の多様性を育む。	1) 研究授業の実施および研究協議の充実やICT活用法の共有により、授業力の向上を図る。 2) 生徒の実態に即した課題の提示やテストを実施し、骨太な学力を育成する。 3) 新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	1) 数学が実生活や社会でどのように活用されているかを伝える。 2) 様々な学問との関連を伝えることで、上級学校での学びに興味をもたせ、進路の視野を広げる。 3) 生徒の進路希望を把握し、授業や課外で生徒に適切な指導をする。	1) 授業進度や指導法・教材の工夫などの情報を共有・蓄積し、学年を超えた指導の充実を図る。 2) 百問繚乱を活用し、試験の採点を効率化することで、誤答分析等担当者間で共有・指導に生かす。
理科	具体目標	○実験・実習における安全管理を徹底し、生徒への周知と職員間の連携に努める。	○生徒個々の能力や進路に応じた学習方法を確立させる。	○授業や探究の過程を通して、科学的思考力を育成するとともに、自発的な発言・行動ができるように促す。	○同一科目担当者同士で円滑な情報共有を図り、分業して業務に当たる。
	具体方策	1) 実験室等のこまめな整理整頓を心掛ける。 2) 生徒自身の安全に対する意識を高めさせるため、「実験室の使い方」や「実験をするときの注意」についてガイダンスを行う。 3) 有事の際に早急に適切な対応ができるよう、日頃から教科内の連携を図る。	1) 思考の過程を尊重し、単なる丸暗記に終わらないよう日頃から始動する。 2) 生徒の理解度や到達度に応じた小テストなどをこまめに実施し、基礎力の確実な定着を目指す。 3) 新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	1) 授業中の発問を工夫することにより、常に思考する姿勢を生徒に身につけさせる。 2) 実験をおとして、授業で学んだ知識を深化させるとともに、社会や身の回りの現象との関連に気づけるよう指導する。 3) 生徒の進路希望を把握し、授業や課外で生徒に適切な指導をする。	1) 試験問題作成等に偏りが無いよう年間計画を立てる。 2) 年間指導計画に沿った授業進度をこころがけ、計画的に授業準備等を行えるよう心掛ける。
保健体育科	具体目標	○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。 ○全ての指導において、礼法指導等を通じた道徳教育を行い、状況に応じて主体的に考え実践する態度を養う。	○体育や保健での積極的なI C Tの活用 ○3観点に基づいた授業内容の研究	○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。 ○外部機関や教科横断の指導で体力・技術の向上及び社会的態度を育成する。	○科内のI C T活用術の共有 ○事前・発生時・事後の危機管理について科内で共通理解をはかり不祥事防止に努める
	具体方策	1) 体育委員や種目リーダーを中心に個人や集団の課題解決ができる生徒主体の授業展開を促す。 2) 教室の入退室のマナー、先生方への言葉遣い、服装髪型等、様々な場面での礼法指導を徹底する。	1) ICTを活用し、習得した技能と理想の動きの実態を比較し、計画を修正しながら目標達成に向けて主体的に行動させる。 2) 計画して実行した運動内容を評価したり、改善策を考えたりすることを通して、自己の運動を振り返らせる。	1) 保健や体育理論で健康と運動の重要性を理解させ、体育で実践させながら生涯スポーツの理解をより深めさせる。 2) とちぎスポーツ医科学センターと連携し、より専門的な指導者と関わらせる。	1) 研究授業や科内の研究協議等で知識を習得し、科内で共有しながらICT活用を進める。 2) 科内の打合せを積極的に実施し、適宜、過去に発生した事例の発生原因を共有し、科内全体で不祥事防止に取り組む。
芸術科	具体目標	○芸術文化について理解を深め、望ましい人格の完成を目指す。 ○主体的・能動的な表現活動を通して、自分自身の価値を見出すとともに、他者を思いやる気持ち、道具等を大切に扱う気持ちを育てる。	○思いや意図を持って作品の制作や演奏を行うことができるようにする。 ○作者や発表者の思いや意図を感じ取り、自らの表現活動への工夫へとつなげることができるようにする。	○表現活動が生活に彩りを加える活動となるよう、主体的・能動的に活動できるように促す。 ○興味関心を持って積極的に授業に取り組みながら、芸術を愛好する態度を養い、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	○教科間での情報共有 ○使用教材の精選
	具体方策	1) 諸活動を通じて基礎的知識・技能を習得し、表現力・想像力を育成する。 2) 表現活動を通して自身の有用性を感じ取らせるとともに、周囲への気遣いの心も育てていく。	1) なぜそう表現したいのか、どうすればそう表現できるのかを常に自問自答させる。 2) 鑑賞活動を自分の表現活動に活かすことができるよう、主体的に取り組ませる。	1) 自ら考えて表現をする力を養い、将来の趣味や興味・関心ごととして芸術を大切にしていける心育てる。	1) 音楽書教科間で各クラスの生徒の様子や雰囲気等の情報を共有し、問題の早期発見・早期解決に取り組む。 2) 使用教材を衛生面からも工夫をし、安全を確保して学習に取り組ませる。

		I安全・安心な魅力ある学校づくり	II確かな学力の育成	III3年間を通したきめ細かな進路指導	IV働き方改革の推進と不祥事防止
英語科	具体目標	○授業を通して互いに学びあい、高め合う集団作りの育成 ○発言しやすい授業の環境作り ○スローラーナーに対する支援 ○様々な分野の内容を、英語で触れることで視野を広る。	○基礎学力の充実を図るために、主体的に学ぶ姿勢の涵養 ○言語活動を充実させ、自ら学び、考え、判断する力の養成 ○教科内研究授業を通した授業の質の向上	○英語の知識を深め、表現力を高めると共に、積極的にコミュニケーションを図る態度の育成。	○タブレット端末を活用した授業の実践。
	具体方策	1) 生徒の実態把握に努め、教科内で情報共有を図ることで学習環境の改善を図る。 2) 学習相談をして、到達状況に応じてアドバイスをし、生徒が自信を持って学習に取り組めるように促す。 3) 英語スピーチコンテストなどの各種大会への参加を促す。	1) 予習、復習の徹底を図る。 2) 真摯な態度で授業に取り組ませる。 3) 小テスト等により継続的な学習を促す。 4) 宿題や課題の内容と授業をリンクさせるよう課題の内容や量を吟味する。 5) パフォーマンステストの実施	1) 授業第一主義のもと、日頃の積み重ねの先に進路実現があることを意識させる。 2) 書籍や新聞、インターネット等、様々な媒体を使い教養を深める。	1) 定期的な教科打ち合わせにおいて、常に情報交換をおこない、直面している課題を共有し、課題解決に努める。 2) 課題の出し方を工夫し、確認作業の効率化を図る。
家庭科	具体目標	○安全に実験や実習に取り組むことのできる環境づくりを目指す。 ○自らの生活や社会生活に課題を見出し、解決策を考え、実践する態度を養う。 ○生活設計をとおして将来の職業観を養う。 ○学習効果を上げるためICT機器を活用する。 ○効果的な教材の精選	○自らの生活や社会生活に課題を見出し、解決策を考え、実践する態度を養う。	○生活設計をとおして将来の職業観を養う。	○学習効果を上げるためICT機器を活用する。 ○効果的な教材の精選
	具体方策	1) 調理室、被服室の安全、衛生管理を徹底する。 2) 実験実習に必要な機器等の充実を図る。	1) 各分野を総合的、体系的に捉えることで家庭生活や社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 2) 体験活動を取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。	1) 人の一生を見通し、その中で予測される出来事とそこで獲得すべき資質について考えさせる。 2) 保育園実習等を通して、保育を職業的視点から捉えさせる。	1) WEB対応の副教材を有効利用する。 2) 特に金融教育や消費の分野では、公的機関から推奨されているHP等を活用する
情報科	具体目標	○すべての生徒に出席がある授業を展開することで、自己有用感の向上を図る。	○家庭学習・自主学習等の習慣化のため、生徒が一人で学習を進められるようなコンテンツを充実させる。 ○学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	○メディアリテラシーの育成を図り、情報の必要性や信憑性を見極められるようにすることで、進路選択に必要な情報を生徒自身で入手できるようにする。 ○情報科の授業がない学年の生徒に対して、授業外の学習支援を積極的に行う。	○生成AIを活用した業務の効率化について検討する。 ○個人情報保護の徹底を図る。
	具体方策	1) グループワークを積極的に取り入れる。その際、すべての生徒が発言や意思表示をできるよう、設問やグループワークの形式を工夫する。	1) オンライン学習支援サービス「スタディサプリ」の効果的・効率的な活用方法を提示することで、家庭学習・自主学習等の支援を行う。 2) 理論の学習と実習のそれぞれの場面に応じた規準を検討し、評価を行う。	1) 必要な情報にアクセスし、信憑性を判断する活動を積極的に取り入れる。 2) 情報科の授業がない3年生に対して、共通テストの対策などを行う。	1) Microsoft社製生成AI「Copilot」を積極的に活用し、効率化できる業務がないかを検討する。その際、生徒の個人情報や機密情報が入力されないよう、十分に留意する。
教務部	具体目標	○行事を安全に実施する。 ○安心安全な学習環境の提供をする。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実にむけて学習環境を整える。	○進路指導に十分に取り組むことができるよう日課を調整する。	○業務の効率化にむけて業務内容や方法の整備を行う。 ○危機管理に関する情報を共有する機会を持つ。
	具体方策	1) ゆとりのある行事計画をする。 2) 教室の備品等について適切に管理する。（教室引継ぎの際の備品の取り扱いを含む）	1) 教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているか継続して検討する。 2) 研究授業等の職員研修を有意義な形で実施する。 3) 必要に応じた校内研修を実施する。	1) 生徒個人面談や保護者面談に十分時間をとれるよう、日程を調整する。	1) 各係の業務の進行を把握し、業務の検討・改善を行う。 2) 行事の精選・見直しを行う。 3) 校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。 4) 危機管理に関する研修等を実施する。
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携をはかり、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。		○PTA総会での卒業生進路結果報告や各学年保護者会での進路指導情報について、家庭で保護者から生徒へ伝達してもらうことによって、進路実現に関する生徒の意識を高める。	○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1) PTA活動について、役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2) 同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1) PTA総会や学年保護者会への保護者の関心と出席率を高める。	1) PTA会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
健康指導部	具体目標	○健康の保持増進を図る。	○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1) 保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2) 「保健だより」を活用し、保健教育の推進を図る。 3) クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら保健指導を行う。 4) 講演会や研修を通して健康や危機管理への意識を高めさせる。	1) 様々な場面での体育活動を通し体力の向上を図る。 2) 体育施設の整備・用具の充実を図る。 3) 校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分に行う。	1) 全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2) 校内美化の意識を養う。 3) 花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。	1) 消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2) 定期的な施設・設備の点検を実施し、早期に修繕をすすめ事故防止に努める。
学習指導部	具体目標	○自己有用感を実感し、自己指導能力を育むことを目指した学習指導を行う。 ○生徒の興味・関心が多様なものとなるよう教科外の学びの機会を充実させる。	○生徒の主体的な学習態度を育成するため、指導力の一層の向上を図る。 ○指導と評価の一体化に資する授業を実施し、生徒の学ぶ意欲の喚起に努める。	○生徒一人ひとりの将来の選択肢が幅広いものとなるよう、探究的な学習を進めていく基盤を作る。	○業務の一層の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす。
	具体方策	1) 生徒の努力を見逃さず、声掛けや励ましなどによって適切に評価し、学習意欲を向上させる。 2) 学習のつまずきに対し、個別支援を積極的に行う。 3) 人権教育・主権者教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等が生徒の興味・関心につながるよう工夫する。	1) よりわかりやすい授業方法構築のために授業見学や研修等を行う。 2) 生徒の学習環境改善に向けた検証を行い、必要性に応じて速やかに対応する。 3) 指導と評価のあり方について生徒の理解を促すためシラバスを活用する。	1) 生徒の希望進路と探究的な学習活動が関連性を持てるよう、日常的な教育活動において指導を工夫する。	1) 他部との情報交換等により連携を強化し、業務の効率化を進める。
進路指導部	具体目標	○校内外の諸活動への参加を促し、生徒の個に合った強みを育成する。 ○生徒がベストの状態で活動できるよう、環境を整える。	○進路実現に向けて、計画的に準備・対策を進めるよう、指導・支援に努める。 ○多様な入試方法に関する情報を収集、共有し、学習に関する確かな助言を行なうよう努める。	○生徒が自ら考え進路決定できるよう、きめ細かな指導・支援に努める。 ○生徒自身の適性に基づき、学校説明会や講座、その他の諸活動への参加を促す。	○効率よく業務を進めるとともに、体系的な指導体制について検討する。
	具体方策	1) 生徒が諸活動での実績を意識し、適切にアピールできるよう指導・支援する。 2) 進路情報室や進路掲示板を整え、進路実現に向けた学びの場を常時提供する。 3) 進路に関する生徒の相談事項について、担任および学年との共有に務める。	1) 学校や企業が求める生徒像を理解させ、生徒に必要な資質が身につくような学習指導を行なう。 2) 各教科と連携し、入試過去問題の分析や対策、学習法など生徒に発信できるようにする。	1) 生徒に進路実現のための目標設定を促し、達成のため行動するよう支援する。 2) 学習の記録手帳を活用し、生徒に学習の成果や活動実績を適宜振り返らせる。 3) 進学、就職に関する情報を、生徒自ら収集できるよう働きかける。	1) 業務に関する情報共有を図り、業務が集中しないよう協力体制を強固にする。 2) 生徒の出願手続きや本校から発行する書類について、チェック体制を万全にする。
生徒指導部	具体目標	○自己有用感・自己指導能力を育む指導 ○生徒一人ひとりへの支援の充実	○いじめアンケートの実施と学業指導を通したクラスの融和	○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処	○生徒の人権を意識した指導方法の徹底
	具体方策	1) 自己有用感・自己指導能力を育む指導 ①凡事徹底と基本的的生活習慣を確立する。 ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・ルールの遵守やあいさつ、礼儀等本校の良き伝統を定着させる。 ②自己管理能力を育成する。 ・自ら交通法規を遵守する態度を養い、苦情を減少させるとともに交通事故の減少傾向を維持する。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2) 生徒一人ひとりへの支援の充実 ①悩みや不安を抱えている生徒の早期発見、積極的支援及び組織的対応。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等外部人材の活用。	1) いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備 ①改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を周知・徹底しスムーズに実施する。 ②いじめアンケートを確実に回収するとともに、いじめ情報共有シートの周知を行い効果的に活用する。 ③学業指導を通したクラスの融和。 2) 規範意識や人権意識の高揚、自己有用感の育成 ①学業指導を通じ、学習に取り組むクラスの集団意識の高揚を図る。 ②道徳観・人権意識を醸成する。	1) 生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 ①各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できる協力体制を構築する。 ②日常から各部・各学年とのコミュニケーションを行い、指導を通じて自己理解の深化につながるよう生徒指導諸問題に対処する。	1) 日々の生徒への指導に際して、生徒の状況や人権などに配慮した言動等となるよう注意する。
特活部	具体目標	○部活動の一層の充実を図る。 ○多くの行事を安全安心に実施する危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。 ○生徒会活動・部活動を安全に実施する。	○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。 ○部活動指導の資質の向上、共通理解を図る。	○生徒会活動の充実を図る。 ○ホームルーム活動の充実を図る。	○生徒会活動・部活動の効率化を図る。 ○部活動の不祥事防止の徹底を図る。
	具体方策	1) 部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 2) 学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 3) 天候、感染症等の状況での最悪の事態を想定し、危機管理の徹底、行事の変更等、臨機応変に対応する。 4) 危機管理体制を確立し、未然事故防止、緊急時対応の周知を徹底する。	1) 学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図れるように留意する。 2) ボランティア活動や地域との交流活動、インターアクト活動に積極的に参加するよう指導する。 3) 本校と国際社会、地域社会の懸け橋となるインターアクト活動を実践し、国内外の文化に触れる機会を増やし、グローバルな人材を育成する。 4) 部活動顧問会議等で、校内研修を充実させ、部活動における共通理解を図る。 5) 外部からの講習会を活用し、部活動指導者の資質の向上を目指す。	1) 生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2) 諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3) 礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 4) 十分な時間数を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 5) 学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。	1) 生徒会活動において、効率化を図るために、オンラインツール等を活用したり、省略できる内容を厳選し、活動の効率化を目指す。 2) 部活動において、部活動指導員等の活用で、活動時間や練習内容などの効率化を図る。 3) 部活動において、生徒、保護者対応等、複数顧問で対応し組織で動く。
事務部	具体目標	○不具合施設・設備への適切な対応により、生徒・教職員の安全確保を図る。			○職員の意識改革と業務の進行管理を適切に実施し、風通しのよい職場環境の整備に努める。
	具体方策	1) 不具合箇所の早期発見に努め、危険箇所については予算要求及び修繕対応を行う。			1) メリハリのある業務遂行を心がけるとともに、教職員からの要望等に対しては、適時適切な対応に努める。 2) 計画的な休暇取得に務め、心と身体の健全化を図る。